BONJOUR

ボンジュール

cinéma d'amour

vol.32　2018.8.25 発行

ASSOCIATION NIIGATA-FRANCE

●発行　新潟・フランス協会
●新潟市中央区東堀通6-1038（丸屋本店内）
●TEL・FAX 025（225）2424
●http://anfrance.com/

会長　高木　裕

今年は、芸術作品との出会いから始まりました。1月、原田哲男さんをはじめ、パリ在住の7名の芸術家の展覧会が新潟市新津美術館で開催され、新潟・フランス協会も後援をさせて頂きました。造形芸術のさまざまなジャンル（絵画、彫刻、写真、帽子デザイン、ガラスアートなど）の作品ですが、いずれも独創的な表現に溢れていました。7名の作家（原田哲男、清水伸、水上貴博、風間-オベール偕子、村山眞、村山京子、水島優）の皆さんは、新潟・フランス協会パリ支部の会員の方々です。芸術の都パリで、厳しい評価をくぐり抜け、活躍されている方々だけに、いずれの作品も研ぎ澄まされた美しさを湛えていました。

4月には、ラフォルジュールネは残念ながら今年は休止となりましたが、りゅーとぴあで「春の新潟・音楽ウィーク」が開催されることになり、当協会の人形劇団も「歌おうよ、踊ろうよ、人形と」と題した公演を行い、多くのご家族と楽しく交流をしました。

5月に、新潟大学図書館で、フランスのナント市の芸術家エリック・ワット氏の映像パフォーマンスがありました。三台のプロジェクターで、異なる映像を同時にスクリーンに映し出し、その前で、エリックさんがフランス語で、五十嵐萌さん（新大人文学部）が日本語でナレーションをするという演出で、映像と音響と言語が一体となって、すばらしいパフォーマンスを見せてくれました。トルコのイスタンブールで撮影し、未知の言語と土地に自分を投げ込み、「異邦人」を体験するというスタイルですが、この体験が観客の身体に伝わってきました。

今回のBONJOURのテーマは、フランス映画ということです。私の好きな映画はジャック・ドゥミ監督の「シェルブールの雨傘」（1964）とジャン＝ピエール・ジュネ監督の「アメリ」（2001）です。何度見ても飽きない映画です。二つの映画に共通するのは、色彩映像の美しさです。「シェルブール」は1957年のアルジェリア戦争の時代を背景に、ブルターニュ地方の軍港シェルブールが舞台。「アメリ」はパリのモンマルトル。二本の映画の制作年代はかなり離れているのですが、なぜか懐かしさを感じる映画です。

パリに生きる新潟の作家たち展

パリに生きる新潟の作家たち展覧会

代表理事　本間　彊

この展覧会は2018年（本年）1月27日（土）から3月11日まで新潟市新津美術館で開催されました。会員の皆様のご支援ご協力を頂き成功裡のうちに閉じることができ、皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。展示された7名の作家は、フランスを拠点としてパリを中心に活躍する新潟・フランス協会の会員であり、パリ支部と一体となって取り組みました。パリ支部7名の皆さんの作品は、絵画の他、彫刻、写真、ガラスアート、帽子デザインなど多彩でした。作品は煌びやかでフランスの香りがいっぱい。別世界に紛れこんだようでしばし佇みました。どの作品も色彩が秀逸で、長年にわたりフランスの地に根を張りフランスの風土や生活から溢れ出る自然な色使いなのでしょう。それぞれの個性が重なり合いそして結びつき混然一体となり、展覧会全体のちからを生み出したと思います。また3月4日には、成嶋志保さん（ピアノ）とニコラ・ドートリクールさん（ヴァイオリン）による展覧会コンサートが秋葉区文化会館にて開催されました。新潟・フランス協会では特別バスを仕立て大勢で参加することができました。現代の一流アーティストによるピアノとヴァイオリンの演奏に酔いしれることができました。成嶋さんのご高配に感謝致します。

遡ること2年前、パリ支部の会合で、新潟でパリ支部会員の展覧会を開催したいとの強い希望があり検討を託されました。内輪話しで恐縮ですが、会場、資金、日程、展覧会の構成など紆余曲折はありましたが、原田哲男支部長を中心によく纏まり前向きに進めることができました。新津美術館の横山館長には幾度か温かい決断をして頂きました。横山館長なしには展覧会の開催は不可能だったと認識しております。新潟日報社の八木（現）長岡支社長のご指導、ご協力をはじめ多くの方々の支えなしには成功は及ばなかったと思います。作品の輸送費や様々な経費など予算工面の心配はずっと消えず、各方面にご寄付を募りました。おかげさまで何とか目標額に達することができました。作家たちの新津滞在での宿泊の問題もありましたが、これも会員の片桐奈保美さんがお家を提供されました。

赤字にならず収支平衡ですみ安堵しております。終わりよければすべてよし。
有難うございました。

「パリに生きる新潟の作家たち」展を終えて。

パリ支部長　原田　哲男

今回の「パリに生きる新潟の作家たち」展は、2015年末から新津美術館の横山館長、大森学芸員、長島学芸員との面会から始まりました。大変な努力と皆さんからの協力のお陰で実現に辿りつきました。

横山館長、この企画担当の長島学芸員には大変お世話になりました、とても感謝しています。出品作家皆さんの気持ちを代表しまして、心より御礼を申し上げます。

そして展覧会実現に作家各自の経費負担が少しでも軽くなる様にと、多くの会社、個人からの協力を承りました。皆様への感謝を忘れず、これからも頑張って作家活動を続けていきたいと言う力をいただいた様な気持ちです。

参加した作家は何かにつけ新潟と関わりのある作家たちでした。フランス、パリで活動している新潟県出身の作家の皆さんです。

新潟もパリも私達にとってはどちらも大切な故郷です。時々新潟の事を思い出しては、頑張ろうと言う励みになっています。新潟県人の底力を発揮しなければと、辛い時もそう自分に言い聞かせて頑張っています。そんな私達を応援して下さった新潟・フランス協会の皆さんや、新潟県民の皆さんとも、これを機会にパートナーシップがもっと発展していく事を期待しています。

新潟・フランス協会パリ支部会員の芸術家の7人。

彫刻家・原田哲男、画家・清水伸、水上貴博、風間-オベール偕子、写真家・水島優、帽子デザイナー・村山京子、ガラスオブジェ作家・村山眞 です。

ピアノ演奏者の成嶋志保さんのコンサートもこのイベントの一つとして新潟市秋葉区文化会館との協賛で開きました。多くの皆さんから展覧会を観て頂き、コンサートを聴いて頂き、新潟の街が文化の街でもあると言う印象を世界に広めていけたらと願っています。夢は大きく広がります。

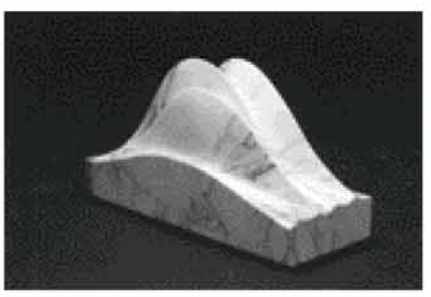
村山眞　無題
2008年

風間-オベール偕子
《より遠方に》　2014年

村山京子　《Le chapeau Bibi》
2012年（2015年再制作）

水島優　《La ligne de chemin de fer》
2003年撮影

水上貴博　《Ferme（農屋）No081304》
2008年



原田哲男　《スカイマウンテン》
2000年

清水伸　《バレンバン・リマール》
2003年

舞踏会の手帖

丸山　美里

「あの頃はよかった」なんて過ぎ去った青春に思いを馳せることがある。あの人は今どこで何をしているだろうか…。ジュリアン・デュヴィヴィエ監督の『舞踏会の手帖』Un carnet de bal (1937) はそんな淡い青春の思い出の蓋を今一度開き、過去の自分を探しにいく物語である。

主人公クリスティーヌは36歳の若さで夫を亡くし、他に家族も友人もなく孤独である。そんな時ふと手にした舞踏会の手帖には16歳の時の初舞踏会で踊った相手の名前が記されていた。煌びやかなシャンデリアにモスリンのカーテン、純白のドレスに身を包み優雅なワルツを踊ったのがまるで昨日のことのように甦る。そして彼女に愛を囁いた10人の男性のことを思い出し、過去の亡霊たちを訪ねる旅に出るのだった。

私はこのクリスティーヌが初舞踏会を特別な思い出として大切にしている気持ちがよくわかる。私は大学時代に競技ダンス部に所属していて、ダンスパーティーに初めて参加した時のことを今でも時々思い出すからである。黒地に水玉のドレスを着て憧れの先輩とワルツを踊った。おとぎ話に出てくるお姫様のような気分だった。

しかし、時の流れというものは残酷で、変わらないものなど何一つない。クリスティーヌが再会した男性たちは、みな20年前とはすっかり変わり果て、その度に甘い幻想が失われていく。昔話に花を咲かせてみてもすぐに現実に引き戻されてしまう。このある意味巡礼とも言える旅を終える頃、過去の自分から脱却し新たな希望を見出すことになる。少しノスタルジックな気分に浸りたい時におすすめの一本だ。

『新潟 ― 小須戸 ― イスタンブール ― 佐渡』

映像作家　エリック・ワット（日本語訳　五十嵐　萌）

新潟には4月25日に到着しました。夕方、というかもう夜で、小須戸にある宿に連れて行ってもらいました。一階にレストランを併設した古い木造建ての家です。バスで40分、広い田んぼの真ん中にありました。

こうして私は日本にいたのです。村の中央を走る道路、木造の家並み…私はここに何を求めて来たのでしょうか。

全く未知の言語、言葉、文字、文化の中に浸っているという感覚。この特別な感覚を改めて体験したかったのです。つまり異邦人になること。何も理解せずとも流れに身を任せて毎日この驚きを撮影してきました。

新潟はナントと特別な歴史、つまり長きにわたる交流の伝統があります。だからこそこの街にやってきたというのもあります。

2017年10月にナント大学にて高木裕氏と出会いました。アンスティチュ・フランセに対して援助の要請と、私の「遠ざかる」と名付けたパフォーマンスビデオの活動を再開したいという願いについて言及しました。2014年、1か月間見知らぬ土地に浸るという体験をイスタンブールにて味わいました。トルコという国はアジアとヨーロッパという異なる2つの大陸に挟まれており、そこから3つのスクリーンにそれぞれ異なる角度から撮影した映像を映すという三面映像の形態を思いつきました。この三面映像のために撮った映像を持って再びイスタンブールから戻りました。上演は現地で私が日々書き留めた文章の朗読という形で演じ、トルコ語の同時翻訳と共に行いました。

新潟ではその日仏版をやることを提案し、大成功をおさめました。素晴らしい冒険で、エネルギーや熟達した技術との出会い、そしてこれは私にとって、作品「遠ざかる」よりもさらに「異邦人」的な感覚でした。というのも、新潟でイスタンブールを再び体験したのですから。二重に「異邦人」的です。しかしどちらも受け入れました。

イスタンブールでは、この街でのあてどない散歩は私をあらゆるところに導きました。見知らぬ人々に見せた「こんにちは。フランスから来ました。あなたのポートレートを撮影してもいいですか？ありがとうございます」とトルコ語で書いた紙と共に。新潟でもこれをまた行おうと思っていました。しかし何度も断られてしまい、すぐに気づきました。イスタンブールでしたことをここで再現すべきではないと。その場で次のアイディアを思いつかなければなりませんでした。注意深く、どのように見るか、どう撮影するか。バス、電車、風島の漁港で紙を見せることなく人々を撮影しました。カメラと徐々に順応しながら。そしてまた少しずつ小須戸の田んぼと山々の中で、自転車で、徒歩で、電車で移動し加茂や田上に立ち寄ったりして、私が何をしにやってきたのかに気づいたのでした。それは、芭蕉の俳句の現代版、俳句の映像です。

「遠ざかる」の一コマ

それに短い視覚的、聴覚的な詩と3つの映像を組み合わせて。これらの俳句集は映像となるでしょう。2018年6月15日、今のところ映像は寝かせています。しかしもうタイトルはあるのです。『短くゆるやかな俳句100選』

もちろん、私の目標はこの新作を2019年に新潟で上映すること、再び新潟の地を踏み、私が37日間の日本滞在の中で作り出したものを見せることです。

あなたは誰ですか？ ―エリック・ワット作品上映に関わって

新潟大学人文社会・教育科学系　教授　鈴木　正美

宮前正樹 (1957-2000) というアーティストがいた。1980-90年代に創作活動をし、とりわけワークショップでは日本のアート史においてもきわめて先駆的であった。この宮前さんの代表作品が、「Who are you?」シリーズだった。ビデオカメラを持って、異国に行き、そこで偶然出会った人に「Who are you?」と問いかける映像作品。しかし、「あなたは誰ですか？」と問いかけるその時、相手にひとつの条件が突きつけられる。「名前、性別、国籍、信仰する宗教については言及しないこと」。その上で「自分とは何者なのか？」という問いに応えなければならないのである。宮前さんはさまざまな場でこうした問いかけを続け、その記録を映像や平面作品に再構成した。

「あなたは誰ですか？」と問いかけることは、すなわち「自分とは何者なのか？」と問うことであり、こうして出会ってしまった「あなたと私はいったい何なのか？」と話し合うことだった。その答えは永遠にでることはないだろうけれど…。

エリック・ワットが新潟に来たのは偶然ではないと感じたのも宮前さんのことを思い出したからだった。ワットさんの「異邦人になる」の企画を知った時、宮前さんの作品と根底でつながっているとすぐに思った。ワットさんは見知らぬ町で迷子になりたいと言う。実は私も迷子になることが好きで、初めて訪れる場所では、いつもあてどもなく彷徨うことを楽しんでいる。

今回の新潟大学での「遠ざかる」の上映にあたって私は主に音響の担当をしたのだが、ワットさんの耳の良さには感嘆した。微細な音の変化をすぐに感じ取り、私の音の調整に的確な指示を与える。映像作品は音の方がはるかに重要だと私は常々思っている。「遠ざかる」も音と声（＋映像）のパフォーマンスだった。そして、「あなたは誰ですか？」「私とは何」「私たちは…」と、ワットさんも終わることなく問い続けるのだろう。

今井あいさんに最近のパリについてお聞きしました。

無精？武装？美show？

今井　あい

パリ、ただとりとめもなく流れて行くその一瞬一瞬が、美しく心を離さない。アンニュイ、いつも新たな可能性を残す余裕を感じさせる、そんなけだるさがパリという町全体に流れる。そのけだるさを、男性の「ひげ」に私は感じる。

今“無精”髭が流行っている。特に20代､30代の男性に多く見られる。この無精髭、整えられていることが特徴だ。フランス語では、Barbe de 3 jours、「3日後のひげ」と言い、専用の電気カミソリもある。芸術家やスポーツ選手などの自由職だけでなく、省庁に務める官僚も例外ではない。

髭文化は、その都度変遷してきた。戦争の象徴として忌諱（きき）され、男性の象徴として崇められ、ファッションとして流行した。現代の“無精”髭現象は、ファッションとしての役割と、もう一つ、女性の社会進出により、今までの人生モデルが崩壊した社会で、今までのやり方で男性の力を発揮しきれない、困惑と憤りを、髭を通して表現しているように私は感じている。髭、現代フランス男性の最後の武装、新たな時代を切り開けるのか。

オペラには、髭がよく登場する。セビリアの理髪師の理髪師は原語では“髭屋”といい、語源は髭を整える所だった。そんな髭文化黄金期に発達した、オペラの世界を、世界で活躍する歌手による歌唱で、ご堪能いただきたい。2018年9月8日土曜日、県民会館大ホール13：30開演。出演：ジョン・健・ヌッツォ、今井あい、デニス・セドフ。乞うご期待！

エリックさんの作品を観て感じたこと

新潟大学人文学部人文学科4年　横山　裕香

私達映画倶楽部は、昨年にナント市のジュン・コルドン監督が新潟市で映画撮影をした際に撮影スタッフとして協力し、又ナント市で開かれた日仏中韓都市・文化対話へ参加しました。そのご縁もあり、鈴木先生や高木先生にお声がけいただき、今回エリック・ワットさんの上映会を手伝うことになりました。映画倶楽部としては上映会のスタッフとして受付やプロジェクター機材設置、上映会の宣伝をしました。3年生から1年生までの部員が協力し、部員それぞれに学びがあった活動だったと感じます。

私はエリックさんの作品を観て、異邦人になるというテーマの下、3画面にそれぞれ違う映像を投影するという大胆な演出や、緻密な編集技術を使って表現していることに感動しました。私はリハーサルや上映会当日など、何度も作品を鑑賞する機会があったのですが、その度に新しい発見がありました。きっと、もっと観ていけばまだまだ気づかない発見があるのだと思います。そのくらい奥行きのある作品でした。特に、偉大なフランス人映画監督ジャン＝リュック・ゴダールの作風と似た印象を感じると共に、アルフレッド・ヒッチコック監督の「裏窓」をオマージュしたようなシーンがあることに気づきました。そのシーンは、エリックさんの宿泊先の部屋の窓から、他の建物の部屋の窓を撮ったシーンでした。それは、部屋の中で話し合う男女や洗面台で動作をしている人など、窓の中の人の暮らしが映し出されていました。「裏窓」の冒頭のシーンにも、主人公のアパートの裏窓から他の住民たちの暮らしを窓越しに撮ったシーンがあります。そのことから、エリックさんは様々な映画監督から影響を受け、自分なりに解釈し作品を作っていることがわかりました。

エリックさんは新潟市や佐渡で撮影も行ったとのことでした。エリックさんの目から新潟がどのように映像として切り取られ、編集されていくかとても楽しみです。

「 Devenir étranger 」（異邦人になる）

新潟大学人文学部人文学科4年　五十嵐　萌

エリック・ワット氏についてのお話を高木先生からいただいたのは、まだフランスに留学していた2月でした。通訳をボランティアで経験してそれが楽しかったことから、ワット氏の通訳・翻訳という先生からのご提案には非常に興味を惹かれました。迷うことなく「やります！」と言いました。しかし当初YouTubeにあった彼の作品のショートクリップを見た際、正直なところ全く理解ができず、なるほど芸術とは…などと考えてしまいました。帰国後映像の台本をいただき、翻訳を始めました。案の定、簡単な翻訳ではありませんでした。本人に聞かないと意味がよくとれない箇所、トルコ語の箇所、私の日本語の語彙力が足りていないために言葉が見つからないなど、困まりました。ですがこの翻訳の作業は私にとって、素敵な現実逃避でした。どうしたら皆に分かりやすく、しかし作品の雰囲気や言葉のニュアンスを壊さずに訳せるのかを考えることは、大好きな言語に真に向かい合っている気がして楽しかったです。

いざワット氏と会い、彼の作品に対する思いや背景を聞くと作品のことがどんどん分かり、何度も映像を見て練習をしているうちに、彼の作品がとても好きになりました。devenir étrangerの意味が自分にも染み込んでいく気分でした。リハーサルと本番では特に、ワット氏と息を合わせるのに苦労しました。度々即興でやられるので…！アーティストらしい、と思っていました。

上映から間もなく、彼は佐渡に行き、新潟に戻ってきた際に佐渡で撮った映像につけるであろう文章を私に送ってくれました。楽しく読ませていただき、次の作品がとても楽しみになりました。ワット氏はとても面白い方ですし、次もぜひ翻訳させていただきたいと個人的には思っています。時々、歩きながらふとl'éloignementを思い出し、devenir étrangerを試みて、今までは考えもしなかったその感覚を楽しんでいます。

フランス語講座のロマン先生と新潟市国際交流員のイヴさんにおすすめ映画をお聞きしました

ロマン・ザンベリ　「フランス映画」のおすすめ

1. 8人の女たち（8 femmes）
フランソワ・オゾン監督の作品です。フランスで有名な8人の女優が出演しています。

2. ルビー&カンタン（Tais toi !）
日本でも有名なジャン・レノとジェラール・ドパルデューが共演したコメディ映画で、とても面白い作品です。

3. 憎しみ（La Haine）
パリを舞台に人種差別を扱った作品です。主演のヴァンサン・カッセルはこの映画で有名になりました。

「その他」のおすすめ映画

1. ライフ・オブ・パイ（L'Odyssée de Pi）
インド人の少年がトラとともに海を漂流する話です。映像が非常に美しく、ぜひ大きな画面で見てほしいです。

2. ジョニー・イングリッシュ（Johnny English）
イギリスのコメディー作品です。Mrビーンのローワン・アトキンソンが主演で、とにかく笑えます。

3. レオン（Léon）
ジャン・レノが主演する有名な映画です。敵役のゲイリー・オールドマンの演技が素晴らしいです。

ダイエ・イヴラム　「フランス映画」のおすすめ

1. « La Haine » de Mathieu Kassovitz
パリ郊外を舞台にした映画です。若者に対して警察の暴力行為を紹介し、フランス社会問題を上手に把握した作品です。海外ではよく知られていないフランス人移民二世の日常生活を撮影し、国のシステムに対して彼らが持っている憎しみの原因を発表する魅力的な映画です。

2. « Léon » de Luc Besson
フランス俳優のジャン・レノと若いナタリー・ポートマンを組み合わせた映画です。熱血的なストーリーですが、この作品を通じてフランス監督のルック・ベソンがフランスにおける映画撮影のレベルをさらに向上させてくれました。

3. « Astérix et Obélix : Mission Cléopâtre » de Alain Chabat
フランスのユーモアを中心にした映画です。他国籍の方には理解するのが難しいと思いますが、フランスの独特な考え方やスラングなどを楽しめる作品です。

「その他」のおすすめ映画

1. « Kill Bill vol.2» de Quentin Tarantino
ストーリーはもちろん、美しい画像が積み重なっている映画作品です。タランティーノ監督の優れた演出が非常に感じられます。要するに、シネマに敬意を表そうとしている映画です。

2. « Old Boy» de Park Chan-wook
どんなにひどい時でも、« Old Boy»を鑑賞するたびに、ストリーの素晴らしいシナリオに感激する。

3. « 渇き。» de Tetsuya Nakashima
日本の変わった映画作品ですが、ストーリーが複雑であるため「もう一回観てみたい」という気持ちになってしまいます。この点こそ、作品の魅力だと思います。才能のある若い女優の小松菜奈の演じる姿もとても興味深いです。

春の新潟・音楽ウィークにて、新潟・フランス協会は人形劇で参加しました。

ANF人形劇団「春の新潟・音楽ウィーク」で、こどもたちと一緒に世界を旅する！

伊藤　薫

ナント市で開催されるフランス最大級のクラシック音楽の祭典「ラ・フォル・ジュルネ」が新潟で開催されるようになって、新潟・フランス協会は開催初年度から様々な形で参加し恒例事業となりつつありましたが、残念ながら今年は「ラ・フォル・ジュルネ新潟」の開催を休止するという、とても残念な春になってしまいました。

その後、新たに開催した「春の新潟・音楽ウィーク」への参加を新潟市から承け、ＡＮＦ人形劇団は開催一ヶ月前という急展開の中、子供たちの笑顔に出逢える喜びだけを胸に準備・練習を始めました。

ＡＮＦ人形劇団による人形劇上演！

「歌おうよ、踊ろうよ、人形と！」

いろいろな国の歌を人形、歌姫、合唱団と歌います。皆さん一緒に歌いましょう。

ご案内のパンフレットに載った内容です。上演時間は45分間。今年の人形劇は、観客である子供たちと一緒に歌ったり踊ったりする体験型公演になりました。

りゅーと君もぴあちゃんも、ドラゴンもおじいちゃんもおばあちゃんもお父さんもお母さんもお兄さんもお姉さんも赤ちゃんも宇宙人も魔法使いも羊飼いも馬も羊も大きな鳥も小さな鳥も青鬼さんもトリコロール仮面も歌姫もピアノ姫も合唱団も、みーんな！　息がピッタリ！

今年も沢山の笑顔というご褒美を山ほど貰った劇団員のメンバー！これまでの苦労は吹っ飛び、あとはワインで乾杯するだけです。劇団員ひとりひとりのご紹介は、またの機会にあらためて。心からの感謝を込めて「ＡＮＦ人形劇」公演のご報告を皆様に。

事務局通信

事務局長　萱場　和彰

今号は当協会としてもイベントが少なく記事がそろうかなと思っておりましたが、心配など無用で会員の皆様の活発な様子がどんどん入って参りました。

私の周辺でもこの記事以外に1月12日に大使館で全国名誉領事会議が開催されました。恐らく10数年ぶりの開催になりましたが、名誉領事の方も年齢規定（70歳）でここしばらくの間に入れ替えがありました。それよりも大使がこの集まりの必要性を強調されていたこと。

EPAの調停によりEUとの新しい経済圏が誕生しました。GDPで世界の30%を占める額です。ワインやチーズもますます手に入れやすくなるでしょうか。

7月14日の革命記念日では河野外務大臣が出席され、インド太平洋の安全保障にも調印されました。平和を願う方々には微妙な感じでしょうが、フランス海軍が日本の港に寄港する回数も増えることでしょう。新潟港にも寄港することがあるかもしれません。フランス大使公邸で開催される革命記念日にも制服を着た海軍の方が来られます。

革命記念日　大使公邸にて

6月末に大使館文化部よりフランスへの留学に際してのプロモーションが新潟大学でありました。ホームステイや宿泊施設の紹介をする部署で、従来は大学側でやっていたことがもっと便利になるのではないでしょうか。

そして最後はロシアで行われたワールドカップでフランスが20年ぶりに優勝したこと。前回優勝した大会の次の大会は日韓で行われた2002年でした。あのときは誰もがフランスは予選リーグをトップで通過して、新潟で行われる決勝トーナメントでイングランドと対戦すると思っていたのに、残念ながら予選で敗退して日本に来ることはありませんでした。革命記念日が行われた7月15日の24時が決勝トーナメントのキックオフです。いつもは梅雨のまっただ中なのに、今年はすでに梅雨が明けて、この日の気温は35度でしたが、さらにヒートアップしていました。

法人会員インフォメーション

Kinasé 2018年7月11日パリにオープン！

法人会員である株式会社グラムスリーが新潟県のお酒や食品、工業製品を展示・販売するお店「Kinasé」（きなせ）をオープンしました。

住所：28 rue dragon 75006 Paris France　営業時間：10:30~19:00　休業日：日曜

坂本明社長より一言

新潟の良いものをフランスの方々に知っていただき、買っていただき、使っていただき、そして 多くのフランスの方に新潟に親しんでいただき、新潟に足を運んでいただけるよう頑張ってまいります！

イベントカレンダー

- 2017.12/20(水)　クリスマス例会・チャリティーバザール
  ～えのもとくみこカルテットがクリスマスに奏でる～ 万代シルバーホテル
- 2018.1/26(金)　「パリに生きる新潟の作家たち」展覧会オープニング歓迎会
  新潟グランドホテル
- 2018.4/4(水)　定時総会・ワインパーティー
  ～文太郎が歌うシャンソンの夕べ～ ホテル日航新潟
- 第28回 ロマン先生のフランス語講座 入門編
  2018.5/24(木)・31(木)、6/7(木)・14(木)・26(木)、7/5(木)・12(木)
- フランス文化講座　2018高木ゼミナール（全3回）
  - 6/21(木)　第1回 19世紀首都パリ 夢と欲望の空間
  - 7/19(木)　第2回 印象派と水を巡る旅
  - 9/20(木)　ジャン・コクトーの映画における神話と伝説

㈱アイト商店
〒951-8068 新潟市中央区上大川前通10-1870
TEL 025-228-2337　FAX 025-228-7715

洋菓子材料の総合商社 池伝株式会社
〒950-0863 新潟市東区卸新町2-848-15
TEL 025-275-5136 FAX 025-275-5139

株式会社イシカワ
〒956-0801 新潟市秋葉区大蔵738-1
TEL 0250-22-2000

Uoshoku ㈱ウオショク
〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野450-1
TEL 025-283-7288 FAX 025-283-7218

ANA CROWNE PLAZA NIIGATA
〒950-8531 新潟市中央区万代5-11-20
TEL 025-245-3333 FAX 025-243-0493

学校法人 エイシンカレッジ
シェフパティシエ専門学校
〒950-0911 新潟市中央区笹口2-9-1
TEL 025-242-0025　FAX 025-242-0026

酒類 ㈱小川
〒951-8041 新潟市中央区本間町2-2597
TEL 025-228-1631 FAX 025-222-1051

片山商事株式会社
〒950-0868 新潟市東区紫竹卸新町1927-24
TEL 025-274-1160　FAX 025-274-1285

カヤバ
〒950-0916 新潟市中央区米山1-11-3 エントリービル2F
TEL 025-242-1577 FAX 025-242-1573

KIRIN キリンビールマーケティング㈱新潟支社
〒950-8530
新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル4F
TEL 025-245-2321 FAX 025-241-6381

gram3 株式会社グラムスリー
〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-6 大塚ビル3階
TEL 03-6402-0303 FAX 03-6402-0302

JTB ㈱JTB関東 法人営業 新潟支店
〒951-8063 新潟市中央区古町通6番町976
TEL 025-224-2201 FAX 025-229-5775
法人営業部 〒950-0082 新潟市中央区東万代町1-30 新潟第一生命戸田建設共同ビル3F
TEL 025-255-5101 FAX 025-248-7687

リラクゾート 万代シルバーホテル
〒950-8533 新潟市中央区万代1-3-30
TEL 025-243-3711 FAX 025-243-3720

J risk management ㈱Jリスクマネージメント
〒951-8053 新潟市中央区川端町2-12-1
TEL 025-222-2025 FAX 025-222-2026

早福酒食品店
〒951-8162 新潟市中央区関屋本村町2-305
TEL 025-266-8101　FAX 025-266-8105

塚田牛乳
〒950-0213 新潟市江南区木津工業団地2-1
TEL 025-385-3911　FAX 025-385-4126

㈱とくながレディースクリニック
〒950-0932 新潟市中央区長潟837-1
TEL 025-286-4103 FAX 025-286-4107

ウォーターフロント&ナイスビュー 新潟グランドホテル
〒951-8052 新潟市中央区下大川前通3-2230
TEL 025-228-6111 FAX 025-228-0735

㈱新潟スカイツーリスト
〒950-0909 新潟市中央区八千代1-2-29
TEL 025-243-3177 FAX 025-243-0867

学校法人 新潟総合学園
〒950-0916 新潟市中央区米山3-1-46
TEL 025-255-5522 FAX 025-255-5523

ALSOK 新潟綜合警備保障㈱
〒950-8633 新潟市東区小金町1-17-20
TEL 025-274-1965 FAX 025-271-3445

NCTS 新潟調理師専門学校
〒950-0906 新潟市中央区東幸町8-8
TEL 025-244-2161 FAX 025-247-7928

NISSAN 新潟日産自動車㈱
〒950-0881 新潟市東区榎町75
TEL 025-273-3171 FAX 025-275-5225

㈱新潟日報社
〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1
TEL 025-385-7444 FAX 025-385-7446

新潟薬科大学
〒956-8603 新潟市秋葉区東島265-1
TEL 0250-25-5000 FAX 0250-25-5021

日南ホーム株式会社
〒950-0982 新潟市中央区堀之内南1-15-6
TEL 025-241-2471 FAX 025-241-2488

JAM 日本アニメ・マンガ専門学校
〒951-8063 新潟市中央区古町通5番町602-1
TEL0120-964-308

日本旅行 NIPPON TRAVEL AGENCY
〒950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8
TEL025-248-1000 FAX 025-248-1011

株式会社バウハウス
〒950-0916 新潟市中央区堀之内南1-32-16
TEL 025-248-1960　FAX 025-248-1961

フェルミエ
〒953-0012 新潟市西蒲区越前浜4501
TEL 0256-70-2646 FAX 0256-70-2647

藤田金属株式会社
〒950-8588 新潟市中央区八千代1-7-20
TEL 025-245-6666

The Italia Ken ㈱ホテルイタリア軒
〒951-8061 新潟市中央区西堀通7-1574
TEL 025-224-5111 FAX 025-224-7679

ホテル オークラ新潟
〒951-8053 新潟市中央区川端町6-53
TEL 025-224-6111 FAX 025-224-7060

ホテル朱鷺メッセ㈱ ホテル日航新潟
〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1
TEL 025-240-1888 FAX 025-241-0877

食心幕匠 丸屋本店
〒951-8065 新潟市中央区東堀通6-1038
TEL 025-271-6111 FAX 025-225-5133

明日をもっとおいしく meiji ㈱明治 関東支社 新潟南オフィス
〒950-0141 新潟市江南区亀田工業団地2-1-37
TEL 025-382-1056　FAX 025-382-1029

メルシャン㈱関信越支社
〒950-8530 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル 4F
TEL 048-612-5828 FAX 048-612-8081

㈱よね蔵
〒959-1232 燕市井土巻5-174 フジタビル2F
TEL 0256-64-7432 FAX 0256-64-7955

新規会員様ご紹介（個人会員様）　〈順不同〉

1. 梅津　諭　様
2. 中村久美子　様
3. 丸山　美里　様
4. ミドルミス 裕貴子　様
5. 山本　肇　様
6. 山田　俊明　様
7. 原田　健一　様
8. 栗田　詩子　様

入会のお誘い

URL：http://anfrance.com/

年会費／個人会員 5,000円　学生会員3,000円　法人会員30,000円
申込先／事務局または各会員へ
事務局：丸屋本店内 TEL・FAX 025(225)2424

《ANFカード特典利用》

フランス協会に入会していただくと、ANFカードをお渡し致します。そのカードを提示して、法人会員さま各社各店舗で特典が得られます。サービス内容が変更の場合もございますので、各店舗にて最新情報をご確認の上、ご利用下さい。